

特集



「九州ハニーズ」 川端友紀さん 梶岡美和さん 引退



左から川端友紀さん、梶岡美和さん

女子硬式野球を牽引した2人がユニホームを脱ぐ

元女子プロ野球の中心選手であり九州ハニーズを創設した川端さんと梶岡さんが、今シーズン限りで引退しました。

2人の足跡と、大野城市を拠点に立ち上げた「九州ハニーズ」への思い、今後の活動についてインタビューしました。

(大野城市は、九州ハニーズと協定(令和4年7月)を交わし、女性活躍推進、スポーツ振興および地域活性化を図るため、相互に協力しています。)

野球との出会い

川端さん

兄の影響で小学3年生から硬式野球をはじめ、中学でソフトボールに転向。女子野球のリーグが発足した2009年に、トライアウトを受けプロ野球選手となった。(実兄は、東京ヤクルトスワローズの川端選手であり、初の兄妹のプロ野球選手となった。)

梶岡さん

兄の影響で小学1年生で野球を始めた。中学時代は、女子高校野球部の練習に参加し高校生と同じメニューをこなした。高校時代は女子硬式野球部で活躍し、2012年にトライアウトを受けプロ野球選手となった。

同じチームに所属

(女子プロ野球は2010年に始まり、コロナの影響もあり2021年までの活動となった。現在は無期限の活動休止)

川端さんがチームのキャプテンをしていたプロ野球チームに、梶岡さんが入団した。

川端さんは、梶岡さんの入団当時を振り返り、「当時は、挨拶することから指導した。」と笑った。話をする機会もそう多くはなかったが、チームのキャプテンを梶岡さんに引き継いだころから、会話が增えた。

「九州ハニーズ」の立ち上げ

野球が好きで続けたい選手はいるが、女子の野球環境は厳しい。

男子は野球のプロ選手として活躍に応じて報酬があり、環境も整っている。女子野球を続けていくには、身体や精神力向上を図る体制の整備とともに、金銭面でも続けられる環境が必要だと考えている。

2021年の女子プロ野球活動休止を機に、女子野球選手が活動を続けられるよう、2人は女子野球のクラブチームが無い九州、福岡県大野城市を拠点に「九州ハニーズ」を立ち上げた。

九州ハニーズには、現在18人の選手が在籍。アスリート雇用といったかたちで、企業に採用されているが選手に野球での収入は無い。選手それぞれが民間会社や介護施設などで仕事をしながら練習し、全国大会九州リーグ、福広マッチ(はつかいちサンブレイズ(広島県廿日市市)との試合)など、年間35試合を戦っている。

野球に必要な経費の捻出は、九州ハニーズの活動に賛同いただいたスポンサー(約30社)からの寄附などが主となっていて、常に厳しい財政事情である。